



2019年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2019年8月9日

上場会社名 株式会社ストリームメディアコーポレーション 上場取引所 東
 コード番号 4772 URL https://www.streammedia.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 崔 官鎔
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画本部長 (氏名) 山田 政彦 TEL 03-6809-6118
 四半期報告書提出予定日 2019年8月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年12月期第2四半期の業績 (2019年1月1日～2019年6月30日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年12月期第2四半期	3,982	24.6	96	80.4	99	94.9	72	49.6
2018年12月期第2四半期	3,195	△12.2	53	△67.0	50	△68.9	48	△69.0

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年12月期第2四半期	4.40	—
2018年12月期第2四半期	2.94	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年12月期第2四半期	6,182	4,742	76.1	284.89
2018年12月期	6,418	4,681	72.6	282.35

(参考) 自己資本 2019年12月期第2四半期 4,703百万円 2018年12月期 4,661百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2019年12月期	—	0.00	—	—	—
2019年12月期 (予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2019年12月期の業績予想 (2019年1月1日～2019年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,800	△17.8	80	8.7	80	9.6	70	14.1	4.24

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年12月期 2 Q	16,520,351株	2018年12月期	16,520,351株
② 期末自己株式数	2019年12月期 2 Q	9,234株	2018年12月期	9,197株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年12月期 2 Q	16,511,134株	2018年12月期 2 Q	16,511,209株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、様々な不確定要素が内在しておりますので、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。なお、業績予想に関する事項につきましては、四半期決算短信〔添付資料〕3ページ 1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第2四半期累計期間	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善傾向にあり、政府の各種施策の効果により内需の持ち直しが見られるなど緩やかながら回復基調にあるものの、本年10月に実施予定の消費増税を前に、消費者マインドは依然として節約傾向にあります。また、米中貿易摩擦による中国経済の内需下振れやヨーロッパの経済動向が及ぼすわが国への影響が懸念されるなど、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当事業を取り巻く環境といたしましては、新4K8K衛星放送や多様化する動画配信サービスの普及、映像視聴動向の変化や価格競争等目まぐるしく変化しております。このような経営環境の中、当社の第2四半期累計期間におきまして、ライツ&メディアコミュニケーション事業では大きなイベント案件は無かったものの、引き続き著作権事業が順調に推移し当社の業績に貢献いたしました。放送事業では、自社テレビ局でありますKNTV、DATV、リニア配信のKchan!韓流TVの3チャンネル体制で臨み、他のチャンネルとの差別化を図ってまいりました。

この結果、当第2四半期累計期間の売上高は39億82百万円(前年同期比24.6%増)、営業利益96百万円(前年同期比80.4%増)、経常利益99百万円(前年同期比94.9%増)、四半期純利益72百万円(前年同期比49.6%増)となりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

(ライツ&メディアコミュニケーション事業)

イベント・マネジメント事業では、当第2四半期累計期間には大きなイベント案件は無かったものの、ファンクラブ事業ではシステム運用の本格的稼働も予定通り進み、今後の当事業の収益確保に貢献できる体制を構築しつつあります。著作権事業では、引き続き大型ドラマ著作権の自社テレビ局での放送をはじめ、CS・BSでの放送決定やDVD・VOD化事業も予定通り推移しております。

この結果、売上高は28億80百万円(前年同期比41.1%増)、セグメント利益は3億99百万円(前年同期比192.3%増)となりました。

(放送事業)

放送事業では、自社テレビ局であるKNTV、DATV、リニア配信のKchan!韓流TVの3チャンネル運営体制で、継続的な視聴料収入の安定化と販路拡大を図ってまいりました。KNTVでは2年ぶりの大型時代劇「王になった男」や韓国で高視聴率を記録した大ヒット作「皇后の品格」、「眩しくて」等の話題作を日本初放送して好評を得ました。DATVではSMアーティスト特集と銘打って「SJリターンズ2-E.L.Fの食卓」、「EXOのあみだで世界旅行~高雄&壘丁編~」等のバラエティ番組を日本初放送し、Kchan!韓流TVでは「Power of K TOKYO LIVE」をはじめ「SUPER JUNIOR-イトウクのひとり旅~鹿児島編」、SUPER NOVA日本デビュー10周年記念作品である「Teamスパンバ★レストラン」等の、専門チャンネルの強みを活かしたオリジナル番組を制作、配信してまいりました。

しかしながら、話題作集中放送に伴い番組償却費用が増加したこと、Kchan!韓流TVのオリジナル番組製作費用などコストが嵩んだ結果、売上高は12億11百万円(前年同期比1.9%増)、セグメント損失は75百万円(前年同期セグメント利益95百万円)となりました。

(その他事業)

その他事業では、売上高は1百万円(前年同期比79.5%減)、セグメント損失は0百万円(前年同期セグメント利益0百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債および純資産の状況

(資産)

当第2四半期会計期間末における資産は、61億82百万円となり、前事業年度末に比べ2億36百万円減少しました。この主な要因は、現金及び預金が2億93百万円増加、売掛金が1億6百万円減少、および前渡金が3億74百万円減少したことによるものです。

(負債)

当第2四半期会計期間末における負債は、14億39百万円となり、前事業年度末に比べ2億98百万円減少しました。この主な要因は、買掛金が40百万円減少、前受金が6億2百万円減少、およびその他が3億47百万円増加したことによるものです。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産は、47億42百万円となり、前事業年度末に比べ61百万円増加しました。この主な要因は、利益剰余金が72百万円増加したことによるものです。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前事業年度末に比べ2億93百万円増加し、19億37百万円となりました。当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況と主な要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、3億57百万円の資金の増加(前年同期は6億42百万円の減少)となりました。

これは、主に前渡金の減少が3億74百万円あったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、59百万円の資金の減少(前年同期は50百万円の減少)となりました。

これは、主に有形固定資産の取得による支出が71百万円、無形固定資産の取得による支出が17百万円、および敷金及び保証金の回収による収入が36百万円あったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、3百万円の資金の減少(前年同期は2百万円の減少)となりました。

これは、主にリース債務の返済が3百万円あったことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当事業年度の業績予想につきましては、2019年2月13日に公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (2018年12月31日)	当第2四半期会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,644,304	1,937,533
売掛金	479,099	372,600
商品	18,568	2,100
番組勘定	816,533	747,791
コンテンツ事業権	1,300,164	1,450,044
貯蔵品	127	127
前渡金	1,107,508	733,189
その他	152,911	44,682
貸倒引当金	△1,566	△1,146
流動資産合計	5,517,651	5,286,923
固定資産		
有形固定資産	38,661	92,788
無形固定資産	89,044	89,777
投資その他の資産		
投資有価証券	539,216	508,563
その他	335,785	306,926
貸倒引当金	△101,709	△102,940
投資その他の資産合計	773,291	712,549
固定資産合計	900,998	895,115
資産合計	6,418,649	6,182,039
負債の部		
流動負債		
買掛金	515,962	475,952
前受金	879,145	276,583
その他	315,028	662,042
流動負債合計	1,710,136	1,414,577
固定負債	27,164	24,499
負債合計	1,737,300	1,439,076
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,591,492	4,591,492
資本剰余金	1,825,566	1,825,566
利益剰余金	△1,711,313	△1,638,679
自己株式	△32,974	△32,981
株主資本合計	4,672,770	4,745,397
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△10,927	△41,579
評価・換算差額等合計	△10,927	△41,579
新株予約権	19,505	39,145
純資産合計	4,681,348	4,742,962
負債純資産合計	6,418,649	6,182,039

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年6月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)
売上高	3,195,794	3,982,452
売上原価	2,629,366	3,323,923
売上総利益	566,427	658,529
販売費及び一般管理費	513,017	562,157
営業利益	53,410	96,372
営業外収益		
受取利息	1,072	1,164
為替差益	—	1,418
還付加算金	—	497
貸倒引当金戻入額	40	—
その他	111	127
営業外収益合計	1,223	3,207
営業外費用		
支払利息	591	446
為替差損	3,155	—
その他	17	0
営業外費用合計	3,763	446
経常利益	50,870	99,133
特別利益		
新株予約権戻入益	6,773	3,886
特別利益合計	6,773	3,886
特別損失		
固定資産除却損	—	3,969
減損損失	—	1,375
その他	—	168
特別損失合計	—	5,512
税引前四半期純利益	57,644	97,507
法人税、住民税及び事業税	9,076	24,873
法人税等合計	9,076	24,873
四半期純利益	48,567	72,633

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年6月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	57,644	97,507
減価償却費	15,982	27,878
減損損失	—	1,375
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1,536	811
受取利息及び受取配当金	△1,072	△1,164
支払利息	591	446
固定資産除却損	—	3,969
新株予約権戻入益	△6,773	△3,886
為替差損益(△は益)	3,846	1,991
売上債権の増減額(△は増加)	96,843	106,498
たな卸資産の増減額(△は増加)	△109,788	△64,670
前渡金の増減額(△は増加)	△346,684	374,318
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△16,385	112,857
仕入債務の増減額(△は減少)	△291,511	△40,009
前受金の増減額(△は減少)	220,046	△602,562
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△231,841	327,775
その他	△6,877	15,007
小計	△614,444	358,143
利息及び配当金の受取額	837	1,164
利息の支払額	△591	△446
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△28,103	△1,168
営業活動によるキャッシュ・フロー	△642,302	357,693
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,664	△71,867
無形固定資産の取得による支出	△20,717	△17,887
有形固定資産の売却による収入	—	114
無形固定資産の売却による収入	1,282	—
敷金及び保証金の差入による支出	—	△286
敷金及び保証金の回収による収入	—	36,845
貸付けによる支出	△48,000	—
貸付金の回収による収入	20,000	4,800
その他	—	△11,400
投資活動によるキャッシュ・フロー	△50,098	△59,682
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	△2,964	△3,109
自己株式の取得による支出	△32	△7
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,996	△3,116
現金及び現金同等物に係る換算差額	△3,597	△1,666
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△698,995	293,228
現金及び現金同等物の期首残高	3,287,735	1,644,304
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,588,739	1,937,533

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(自 2018年1月1日 至 2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	ライツ& メディア コミュニケーション	放送	計		
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	1,997,328	1,189,430	3,186,759	9,035	3,195,794
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	44,993	—	44,993	—	44,993
計	2,042,321	1,189,430	3,231,752	9,035	3,240,787
セグメント利益	136,735	95,714	232,450	610	233,060

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、デジタルコンテンツ配信事業及び音楽コンテンツ事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	232,450
「その他」の区分の利益	610
全社費用(注)	△179,650
四半期損益計算書の営業利益	53,410

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに配賦していない管理部門等に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第2四半期累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	ライツ& メディア コミュニケーション	放送	計		
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	2,768,936	1,211,667	3,980,604	1,848	3,982,452
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	111,961	—	111,961	—	111,961
計	2,880,898	1,211,667	4,092,566	1,848	4,094,414
セグメント利益又は損失(△)	399,669	△75,334	324,335	△764	323,571

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、デジタルコンテンツ配信事業及び音楽コンテンツ事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	324,335
「その他」の区分の利益	△764
全社費用(注)	△227,199
四半期損益計算書の営業利益	96,372

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに配賦していない管理部門等に係る費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。